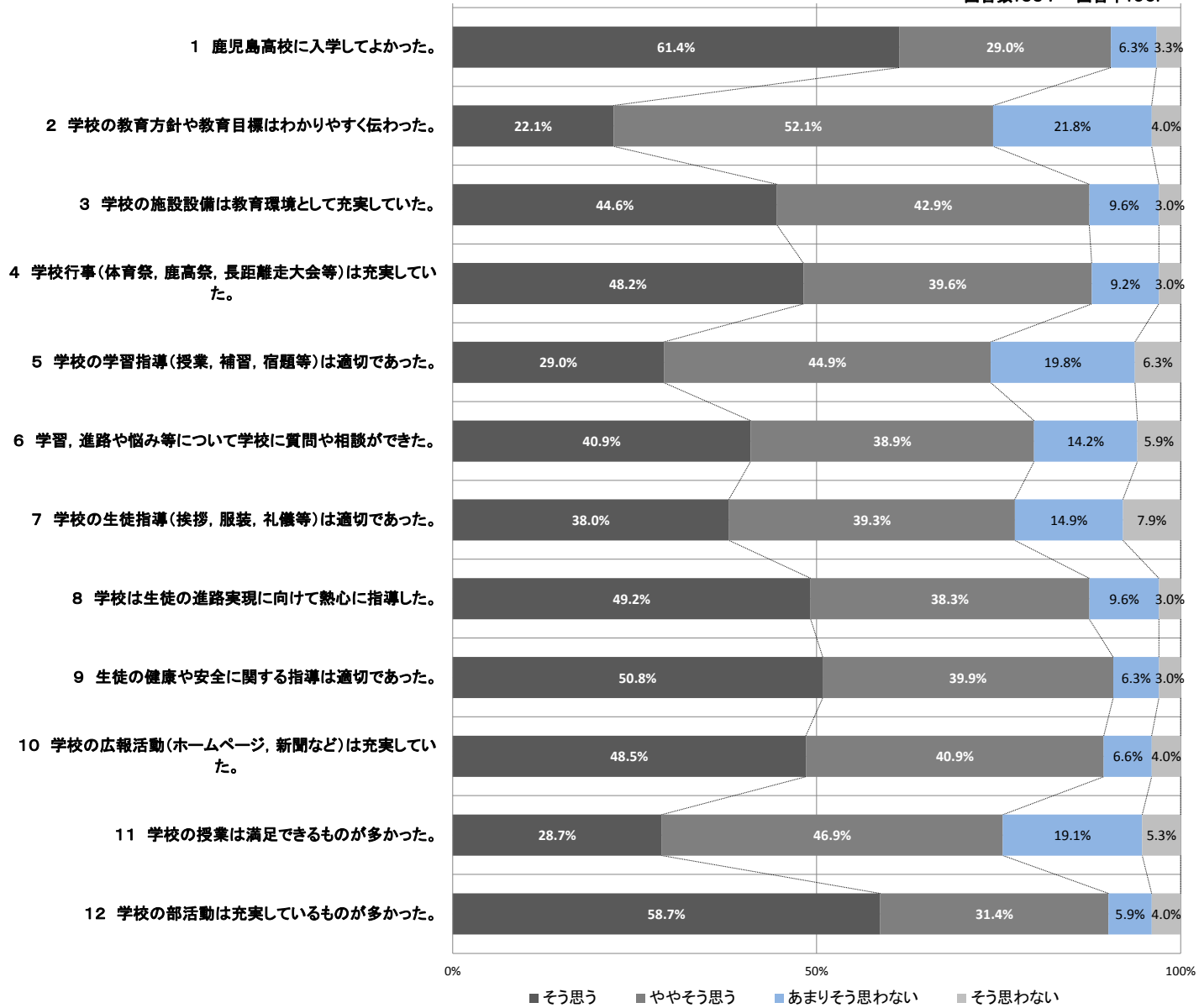


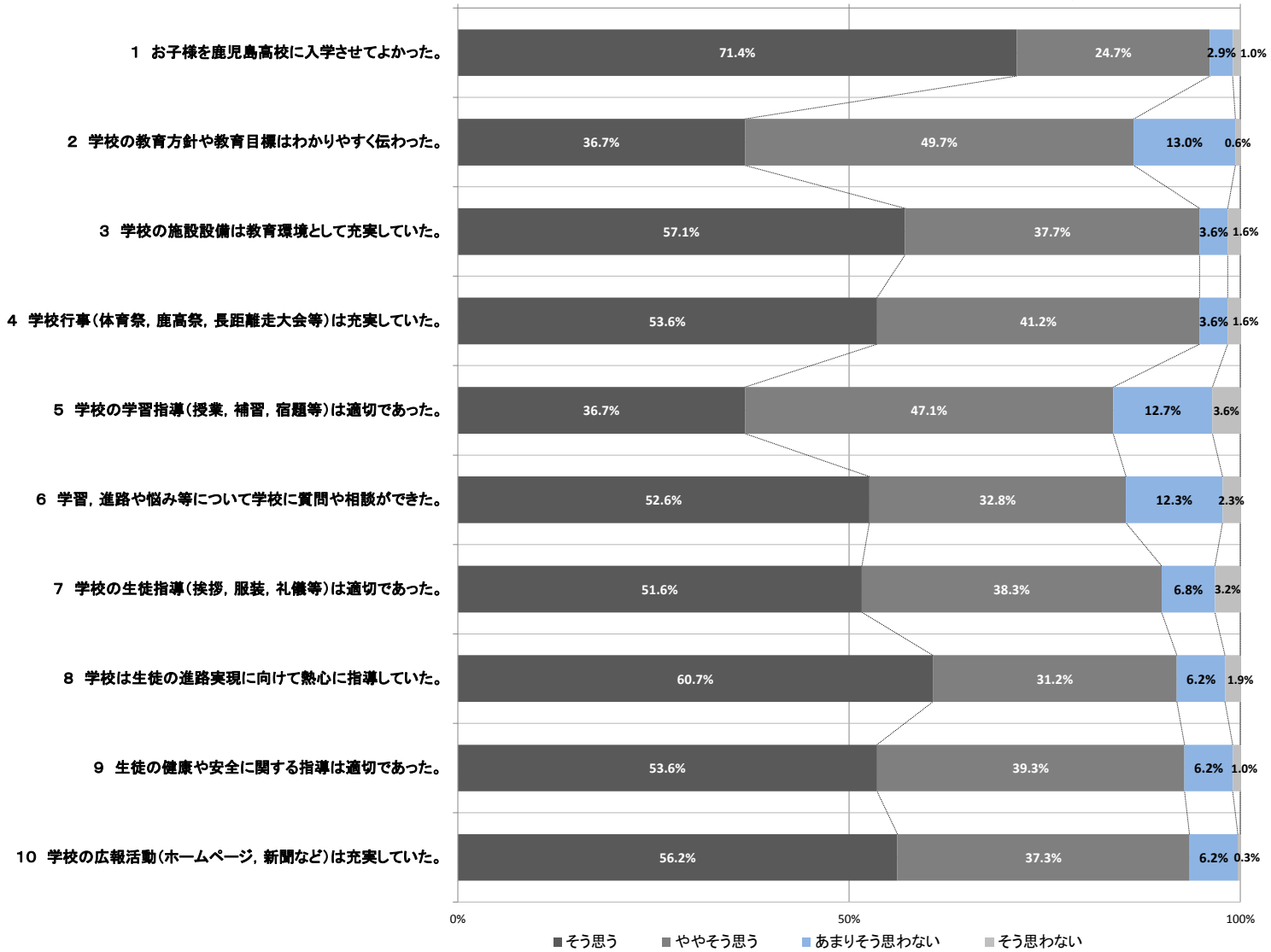
●平成29年度学校評価アンケート結果（生徒）

回答数:334 回答率:96.



●平成29年度学校評価アンケート結果(保護者)

回答数:308 回答率:89.0%



## 平成 29 年度 学校関係者評価

1 総合評価	
4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者、生徒から入学してよかったとの評価が大変高く素晴らしい結果である。更なる期待として、保護者の評価を生徒の評価が上回ることを期待する。</li> <li>○全体的に色々な方法で取り組んでおられ、外から見てよい感じがする。</li> <li>○今の取組で非常に素晴らしく本来 A と思いますが、今後の更なる発展を期待してこの評価とします。</li> </ul>
2 学校行事評価	
4.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒を主体に、体育祭・文化祭等盛り上げ、入学希望者の推進になっていると思います。</li> <li>○PTA 総会時の授業参観はとてもよい。</li> <li>○諸行事に前向きに取り組んで外部から見て大変良く感じる。</li> <li>○生徒 1 人 1 人が生き生きしているのを感じます。</li> </ul>
3 生徒指導評価	
4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>○携帯電話は、登校後回収でもよいのでないか。</li> <li>○4, 5 年前より生徒が素直な感じがする。道路で会うと黙礼して過ぎていく。</li> <li>○通学途中の生徒に以前と比べて制服の大きな乱れもなく良くなってきていると思います。</li> </ul>
4 要支援生指導評価	
3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○退学者が減少することを期待します。</li> <li>○先生方が色々な対応で前向きに取り組んでおられ、今後を期待します。</li> <li>○生徒数が増え、分母が大きくなった分大変だと思いますが、今後ともよろしくお願いします。</li> </ul>
5 進学指導評価	
4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>○エンパワーメントプログラムの取組は素晴らしい。</li> <li>○難関大学への進学 UP を期待します。</li> <li>○外部から見ていて、外壁に掲示してあるものを見ると年々向上しているのがよくわかる。</li> <li>○入試制度が変わるなど大変と思いますが、保護者の願いは希望の大学や難関大学への進学と思います。よろしくお願いします。</li> </ul>
6 就職指導評価	
4.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県内大手企業への枠をいただきたい。</li> <li>○外部から見ていて、外壁に掲示してあるものを見ると年々向上しているのがよくわかる。</li> <li>○今後も引きつづきよろしくお願いします。</li> </ul>
7 保健安全指導評価	
4.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保健室からの指導はおおむね良いと思う。</li> <li>○今後も引きつづきよろしくお願いします。</li> </ul>
8 広報活動評価	
4.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○部活動において好成績を収めているので広報活動も充実していると思う。</li> <li>○よい方向で活動されているのが大変良い。</li> <li>○もう少し強い活動でもいいのでは。</li> <li>○中学校訪問、塾訪問、頭が下がります。今後も引きつづき取り組み、鹿高の良さをさらにアピールいただけるとありがたいです。</li> </ul>

4段階評価 A(5点)・・・取組が良い B(4点)・・・取組がおおむね良い C(3点)・・・取組が物足りない D(2点)・・・取組が悪い

# 平成29年度 学校自己評価

基本目標・基本的視点・基本的方向・主な具体的取組				最終評価	
<b>1 学校ブランド力の向上</b> ～生徒・保護者からの満足度が高く、地域社会への貢献度が高い学校を目指す～					
	<b>基本的視点</b>	<b>基本的方向</b>	<b>具体的取組</b>		
<b>I</b>	生徒・保護者からの満足度向上	3学科それぞれが、学科目標、進路目的に応じたバラエティ豊かな授業、個別指導など手厚いフォロー、学習環境整備などの体制を進化させ、生徒・保護者の満足を追求する。	(普通科) 多様な進路に対応可能な学校 設定科目の構築 ----- (英数科) ①難関大学・地元国立大学合格者増 ②奨学金制度の運用改善 ----- (情報ビジネス科) にこにこ市、インターンシップの 活性化 ----- 学校評価の活用	4.4	・「未来探求」の授業を通じて様々なコンテスト(エッセイ、アイデア等)への応募やワークショップ(シナリオ作り、起業等)を行った。 ・国公立大学合格率は昨年と遜色なかった。鹿児島大学など、概ね生徒の希望する大学へ進路を決定できた。奨学金制度の運用も改善が見られ、公正かつ公平な立場で厳正に行われた。 ・にこにこ市では生徒が主体となった販売実習を行い、インターンシップでは4日間の実習を通じて職業観や勤労観を身につけ、進路に対する意欲も高まった。 ・学校評価アンケートで低評価だった授業について職員会等を通じて周知し、今年度の評価では改善が見られた。
<b>II</b>	地域社会への貢献	ボランティア活動などを通して、学校周辺の地域住民、町内会、企業などから信頼され、存在感のある学校を目指す。	ボランティア活動の推進	4.3	・毎日の掃除の時間に三弧会役員(2名ずつ)がペットボトルキャップの回収作業を実施することができた。 ・奉仕作業については、普通科第1・2学年と情報ビジネス科第1学年が校外の清掃作業を実施した。ただし、他は実施できていなかったため、来年度は多くの学年学科に奉仕作業に取り組んでもらいたい。 ・鹿児島マラソンには約130名が補助員として参加し、給水作業等の業務に取り組んだ。 ・おはら祭には英国ウルフレトン高等学校や関東同窓会や関西同窓会など合わせて約100名の参加があり、賑やかな踊り連となった。
<b>2 先進的な教育課程の編成</b> ～語学力・コミュニケーション能力の強化によりグローバル教育の充実を図る～					
<b>I</b>	語学力・コミュニケーション能力の強化	ネイティブの教員による「英語」「中国語会話」「韓国語会話」の授業、鹿児島国際大学の留学生との国際交流などを通して、語学力・コミュニケーション能力の育成を図る。	カリキュラム編成	4	・大学入試改革へ向けて、次年度の英語検定に対する対策をどうするか検討を行い、GTECの導入を決めた。 ・来訪した英国、台湾、シンガポールの学校と交流を行った。
<b>II</b>	グローバル教育の充実	オールイングリッシュによるディスカッションやプレゼンテーションを通して英語力を磨き、国際交流への派遣、海外ボランティア体験、海外団体との学校交流を実施しチャレンジ精神を培う。	語学研修制度の構築	4	エンパワーメントプログラムでは、2年生が、昨年以上に積極的にディスカッションや、プレゼンテーションに取組み、英語力を高めることができた。

# 平成29年度 学校自己評価

基本目標・基本的視点・基本的方向・主な具体的取組			最終評価
<b>3 未来を築く進路保証</b> ～新しい教育制度や大学入試改革，資格取得に対応できる環境を整え，生徒たちの進路を実現する～			
	基本的視点	基本的方向	具体的取組
I	次期学習指導要領や大学入試改革への対応	生徒たちに育成すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために指導方法の見直し・改善に努める。	① 教育改革に対応するカリキュラムの原案作り ----- ② 大学入試改革へ向けての思考力・表現力作りのための学習指導 ----- ③ 電子黒板、タブレットなどICT機器を活用したAL型授業の展開 ----- ④ PC、タブレットなどICT機器を活用した自学自習計画
II	進路実現に使用できる各種資格の獲得	大学進学や就職の際に大きな武器となる語学検定をはじめとする各種検定，商業系の上級資格などの資格取得への対策を強化する。	英検・商業科目特別講座などの実施 実用英語技能検定特別指導等の実施 ----- 全国商業高等学校協会1級3種目以上取得講座の実施 ----- 日本商工会議所検定資格取得対策講座の実施
<b>4 三弧会・部活動のさらなる活性化</b> ～三弧会組織の改革とともに，全国大会で活躍できる部活動を育成する～			
I	三弧会組織の改革	平成27年度に実施した保護本部との統合によりスリム化した三弧会が，自主的な活動の幅を広げられるよう，さらなる組織改革を行う。	体育祭，鹿高祭，クラスマッチなどの生徒主体の企画・運営
II	全国大会で活躍できる部活動の育成	強化指定部を中心として，部活動奨学生制度および部活動，体育・文化活動推薦入試による勧誘活動により強化を図る。	強化指定部制度の充実
			① 教育改革に対応するカリキュラムの原案作りは，資料収集の段階で，未だ原案作りに至っていないが，教員間の認識は深まっている。 ・大学入試改革へ向けての思考力・表現力作りのための学習指導は，推薦AO入試ではほぼ指導計画通りに運用されたが，今年度は目標値に達しなかった。学習指導の成果としては，国公立大、難関有名私大合格者目標値は達成することができた。 ・電子黒板、タブレットなどICT機器を活用したAL型授業の展開は，それぞれの教科で推進され、電子黒板、タブレット、プロジェクタなど必要に応じて活用されている。 ・PC、タブレットなどICT機器を活用した自学自習計画は，スタディサプリについては具体的な方法が打ち出されつつあり、教科担任によっては生徒の活用率を上げる動きがあった。
			・英数科・普通科選抜クラスを中心に積極的に取り組みまた結果も出て，計画通りに遂行された。 ・3種目以上については，目標を達成できた。
			・体育祭の紅白対抗戦は定着してきた。種目も精選され，生徒主体の運営ができた。応援団の完成度も高かった。 ・鹿高祭は内容も精選され，生徒主体の運営もできた。また，かねてから希望していた，鹿高祭を2日間開催することができた。 ・年2回のクラスマッチは種目も精選され，生徒主体の運営もできた。
			・全国大会に出場した部活動は6であった。強化指定部制度の見直しを現在検討中である。 (全国大会に出場した部：陸上競技部，水泳部，バドミントン部，男子ソフトテニス部，フェンシング部，音楽部)

# 平成29年度 学校自己評価

基本目標・基本的視点・基本的方向・主な具体的取組				最終評価	
<b>5 職員の資質向上</b> ～研修制度を充実させ職員の資質向上を図る～					
	基本的視点	基本的方向	具体的取組		
<b>I</b>	年次別研修の充実	自らのキャリアステージに応じた、学習指導力、生徒指導力、学級経営力など職員に求められる資質の向上を図る。	初任者・経験者研修充実	4	・初任者研修として、一般指導10時間、教科指導20時間、研究授業3時間を実施。 ・経験者研修として、校内授業参観期間中に研究授業を実施。 ・研修を実施することで、自己の授業等を振り返ることができ、その後の意見交換で授業に関する相互理解を深めることができた。
<b>II</b>	テーマ別研修の充実	教育制度改革、ICT など時代の変化に応じた新たな課題に対応する知識や能力の修得を図る。	アクティブラーニング型の授業研修実施	3	校内授業参観では、アクティブラーニング型の研究授業も多く教科を超えた参観が出来、授業方法改善が図られた。